

平成24年度第2回地域協議会は8月29日(水)午後3時から二ツ井町庁舎大会議室で行われた。

新委員への委嘱状の交付、正・副会長の互選、再生可能エネルギーについて協議した。

1 委嘱状の交付

齊藤市長より、各委員へ委嘱状を交付。

2 会長、副会長の互選

「地域自治区の設置に関する条例」第8条第1項の規定により、正・副会長を互選。

会長に田中勝昭さん、副会長に七尾昌樹さんと決定した。

3 案 件

(1) 再生可能エネルギーについて

風力、太陽光、小水力など、地域の自然エネルギーを活用し、その利益を地域に還元し、地域の活性化に結びつけるための検討を進めている。

いままで、新エネルギーといわれていたが、その中の自然由来のエネルギーを再生可能エネルギーと呼ぶようになっており、風力発電、太陽光発電、小水力発電は温暖化問題や脱原発により重要性が高まっている。

また、制度が変わり、地域で取り組みやすくなった点もあり、ひとつは、国のエネルギー政策の一環で、平成24年7月から再生可能エネルギーの「固定価格買取制度」がスタートし、風力発電は、1kwあたり23円で20年間保障となる。

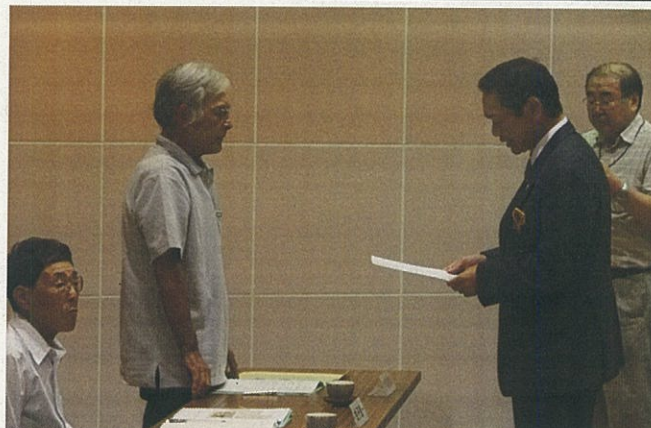
もうひとつが、東北電力の「自治体風力」で、法との整合性が取れず取りやめになってしまったが、能代市が公募した風力発電の計画は、東北電力に採択されている。

再生可能エネルギーは環境負荷が少ない循環型社会で今後の成長が期待され、将来的にはエネルギーのまち「能代」として再生可能エネルギーを活用した地域活性化ができないか考えている。

また、能代市の企業で小水力発電機を開発しており、二ツ井地域の用水路ドドメキで試験を行った。

風力発電は能代の沿岸部では風が良く、稼働率

H24. 9. 25発行



※委嘱状交付の様子 (委員13名が出席)

の全国平均が20%程度に対して能代は24～25%で利益幅が多く見込める。また、海上に風力発電施設を建てる構想についても研究している。

太陽光発電は、浅内地区に130haの県有地である鉾さい堆積場跡地があり、ここに太陽光パネルを設置できないか検討している。

両面太陽光発電(防雪柵)では、実際に製品はないが、太陽光パネルを製作している会社と製品化について調整している。

小水力発電施設については、二ツ井地域のドドメキで県が可能性調査を実施している。しかし、冬期間、水が止まることや水利権の問題もある。国では水利権の許可など柔軟に対応できないか検討しているところである。

地域活性化の方向性としては、現在、地域電源会社を立ち上げ風力発電17基を造る計画である。通常時は売電、非常時には避難所や病院等に電気を供給できるようなシステムの構築により、エネルギーを自給できるエネルギーのまち「能代」を目指し、発電施設の建設については地元企業による工事、将来的には、地元によるメンテナンスや、部品そのものを地元で製造することにより地域の活性化につながるものと考えている。

資料にはないが、スマートハウス、スマートグリット、スマートコミュニティーなど新しいシステムも考えられている。

【主な 質疑 (Q) と回答 (A)】

Q) 夢のような話であるが、実現出来そうなものはなにか。

A) 風力発電、太陽光発電、小水力発電の3つについて、市として進めようとしている。すべてにおいて課題はあるが、順次解決していきたい。

Q) 資料より「地域活性化イメージ」の説明で地域電源会社を市が支援するとしたが、現在立ち上がっている地域電源会社を支援するのか。他に立ち上がった会社を支援するのか聞きたい。

また、地域電源会社を立ち上げる際に、立ち上げまもなく、市民等による出資・支援等が終了していたと聞いているがどうだったのか。

A) 現在、立ち上がっている会社に支援する方向である。この会社は市の公募でも選ばれた会社である。

市民等による出資については、風力発電施設1基が8億円とも言われており、莫大な建設費となり、今後も市民の方には出資ではなく、ファンドなどで参加してもらえるように会社側と調整したい。

Q) この地域でも出資したいとした会社があったが終わっていた。連絡が悪かったのか分からないが、出資すれば、意識が高まると思う。

A) 出資に関しては固まっていると思うが、建設資金は必要となる、ファンド的なもので個人なり企業なりが参加していただければと思う。

これについては地域電源会社が考えることになるが調整したい。

Q) 風力発電施設であるが、洋上に施設建設となれば、風景的な問題が出てくると思う。市民や地域に了解は得ているのか。

A) 沿岸部については、環境アセスメントを実施し住民説明や現状調査を行う。

洋上については、まだ具体的な計画にもなっていないが、事業化され、進めていく場合は当然市民や地域に説明が必要と考えている。

Q) 太陽光パネルであるが、秋田県の4月の日照時間は東京都の1月の日照時間と同じである。このことで収支バランスが見合うのか心配である。効率のよいものが必要になると思うがどうか。

また、地域電源会社は第三セクターと考えてよいのか。

A) 太陽光パネルについて

稼働率の問題は、全国平均12~13%が、こちらは10%となる。事業化の問題の一つが地代である。浅内の堆積場は県有地であるが、県としてもエネルギー分野を推進しており、地代も低く設定している。

太陽光パネルを建設したいとして、東京等の業者から数社話があり、県有地なので県と連携して進めることとしている。

確かに日照時間が少ないというか、稼働率が低い問題はあるが、県有地を活用することで安価な地代と合わせて対応していきたい。

地域電源会社について

市はまだ入っていない。いまのところ、民間企業と金融機関等の会社であり、第三セクターではない。

いずれにしても市として出資又は支援等出来ないか検討している段階である。

Q) 確認だが資料より地域電源会社に能代市が入っている。しかし、あくまでも説明するためのものであり、運営について市は離れていると考えていいのか。

A) 現段階では、市は支援の立場との考えである。

Q) 将来的には、どうなるのか流動的と考えていいのか。

A) 今後の検討によるので、流動的である。



(2) その他

○市道「ふたつ白神郷土の森線」の通行止めについて（状況報告）

新委員となったため、第1回地域協議会で報告した内容を再度説明。

（前回内容）

冬季の通行止めを解除しようとしたが路肩決壊と落石が見つかり危険なため引き続き通行止めとし復旧工法等検討している。

（状況報告）

工事概要について、路肩決壊箇所に鋼製L型擁壁延長12mとガードレール延長30mを施工。工期は7月27日から10月31日までであるが、順調に進めば9月末頃の完成を見込んでいる。完成後は通行止めを解除したい。

地域協議会委員（第4次）〔任期 H26.8.23〕

（会長）田中勝昭 （副会長）七尾昌樹
（委員）伊藤輝幸、金子良一、工藤一成
小林義則、斉藤陽悦、佐々木英樹
佐藤繁則、篠内 久、田村久子
成田 忠、藤田弘子、安井良和
山谷竹美 （敬称略、五十音順）



※ 編集後記

平成24年度第2回目の地域協議会の開催であった。今回、新委員での最初の協議会開催となりました。今後2年間、案件のご審議等、よろしくお願いいたします。（金野）

編集、発行

〒018-3192 能代市二ツ井町字上台 1-1
能代市二ツ井地域局総務企画課 Tel 73-2112